20.貧困家庭の子どもの学力向上に向けて：学習支援という存在を活かす

北澤彩可

はじめに

このレポートでは、貧困家庭の子どもと教育、学力について論じていく。テーマ設定の理由としては、4 月から 12 月までのゼミ活動、学習支援のバイト経験を通して、貧困家庭の子どもと教育について深く知りたいと思い、自分、自分の周りには大学や専門学校へ通わせてもらっている、所謂 " 恵まれた家庭”で育った人が多く、貧困家庭の子どもと教育というテーマを目の当たりにする、考える機会が無いため、今の環境に感謝するためにも知っておく必要があると考えたからである。また、子ども時代の学力が大人になってからの所得や生活水準に影響することが分かっているのにも関わらず、貧困家庭の子どもの学力を上げるための解決策が未だにはっきりと分かっていないため、ここで論じることによって少しでも解決の糸口が掴めたらと考えたからである。

これまでに行われてきた研究の中で、今回論じるテーマと強い関わりのあるものを二つ紹介する。一つ目は菅原ますみらの発達心理学による研究である。簡単に説明すると、家族ストレスと家族投資が子どもの問題行動や学力とどう関係するのかを明らかにするというものであり、結果としては家族ストレスは子どもの問題行動と強く関係し、家族投資は子どもの学力と強く関係することが分かっている。二つ目は、阿部彩の、子ども期の貧困から成人になった時の生活困窮がどのような経路で関係するのかを示した研究である。一番強いパターンとしては、「子ども期の貧困→低学歴→非正規労働→低所得→生活困窮」が挙げられ、これ以外にも「低学歴→生活困窮」や「低学歴→低所得」といったように何も介さず低学歴が直接的に金銭問題に影響するというものも示されている。

このレポートは先程も述べたように、貧困家庭の子どもの教育問題の完璧な解決策を見つけるのではなく、解決策を見つけるための糸口とすることを目的とし、研究方法は、学習支援の経験を元に研究を行い、貧困率などのデータを示した後、学習支援を中心に貧困対策の問題点を挙げ、子ども食堂と関わる中で見つけた案を挙げる。

第 1 章　貧困家庭の子どもの現状、教育・学力

まず、日本の子どもの貧困率は 1985 年から 2009 年にかけて、多少の増減はあるが右肩上がりに上昇し続けており、低所得世帯の子どもの義務教育にかかる費用を国と自治体が支援する制度である就学援助の受給率は、1997 年度では公立小中学校の子どもたちの 6.6%だったが、2011 年には 15.58%まで増加している。また、ひとり親世帯の子どもの貧困率が高く、親の学歴別に見ると、親の学歴が中卒の場合 45%、大卒以上の場合 8%と貧困率が大きく異なる。ここで、日本全体ではなく名古屋市のひとり親家庭について紹介する。名古屋市では 2013 年母子家庭が約 26000 世帯、15 歳未満の子どもがいる世帯に対しては、約 10 世帯に 1 世帯がひとり親家庭とされ、年間収入の一般世帯平均が約 540 万円とされる中、母子家庭は 291 万円である。母子家庭の母親の約 60%が子どもの教育、将来に不安を抱えており、子どもを塾に行かせたいと感じている親は約 60%、塾に行かせたいが行かせていない親は約 50%いる。名古屋市ひとり親自立支援計画として、弁護士による無料相談などの相談・情報提供、教育訓練講座の受講費用給付などの就労支援、ひとり親手当などの経済的支援、医療費自己負担額の軽減などの生活上の負担軽減、そして、中学生の学習支援事業

などの子どもへの支援がある。また、名古屋市の中学生がいる世帯の約 1000 世帯が生活保護需給世帯であるという現状がある。先程述べた学習支援とは、生活保護受給世帯に育つ子ども、貧困層に属する子どもたちに対して行うものであり、日本の学習支援の効果としては直接学力向上に繋がるというよりは家族以外の大人と関係を築くことによる効果が大きいとされる。

子ども期の貧困の経験は成人となってからのさまざまな状況に密接に関係しており、親の所得と子どもの学力は右肩上がりに比例していて、15 歳時点での家庭の経済状況が成人となってからの経済状況に関連することが分かっている。中学校までは義務教育だが、高校大学へと進学することによって教育費の問題が出てくる。小中学校でも教材費や給食費と問題はあるが、高校では授業料が無償化されたとしても、教材費、食費に通学費用などもプラスされるため、金銭的支援を欲しており、実際に生活保護受給世帯の子どもの高校進学率は一般世帯を大きく下回る。大学では、奨学金によって頑張れば大学に行けるという希望を与え、日本の将来を左右するであろう気力・能力がある子どもを支援することが必要である(奨学金などを後から返さなければならないというストレスはあるが)。OECD(注 1)によると、日本は家族が負担する教育費の割合が先進諸国の中で最も高い国のひとつである。教育費に占める公的資金の割合を見ると日本では約 70%となっており、OECD 平均の 83.6%よりも大幅に低い。こういった教育にかかる費用の問題はお金で解決出来るかもしれないが、学力の問題ははっきりとした解決策が分かっていない。生活保護受給世帯に育つ子どもや児童養護施設に育つ子どもたちの極端な学力不足も報告されており、中学高校段階の子どもが小学校低学年レベルの学力に満たないという現状が存在する。また、就学援助世帯と経済的に困窮していない世帯の学力偏差値の分布を見ると、年齢が上がるにつれ、貧困世帯の平均的な学力は低下し、困窮していない世帯の学力は上昇するということも分かっている。

そこで次の章では、名古屋市学習支援事業の概要を記した後に学習支援のバイト経験の中で感じた問題点を論じていく。

第 2 章　学習支援を通して

教育費の中で大きい比重を占めるのが、学校外の教育にかかる費用である。近年、都市部、地方に関わらず子どもを塾や習い事へ通わせることが当たり前となってきており、それらの費用が必然となってきている。当然のことながら、この費用の金額は、子どもの属する家庭の経済状況によって格差が生じる。低所得世帯、貧困家庭ではこういった費用を賄うことは厳しいが、なら子どもを塾へ通わせなければ良いとなるわけではない。どのような経済状況の家庭であれ、子どもが塾へ通う権利は存在する。その中で、塾へ通いたいが通えない子どもを救うため学習支援事業が生まれた。学習支援は全国で行われている。

私のアルバイトの経験を通して気付いた学習支援の問題点の前に、まずは名古屋の学習支援の概要をまとめる。名古屋市内の学区別の箇所数は、千種区(7)東区(5)北区(14)西区(10)中村区(8)中区(4)昭和区(4)瑞穂区(5)熱田区(4)中川区(20)港区(16)南区(10)守山区(11)緑区(15)名東区(9)天白区(8)の計 150 箇所であり、学習支援の財源のうち国庫と市の負担割合は 2 分の 1、平成 30 年 11 月時点の学習支援に参加している子どもの数は 1495 名であり、学習支援を開催している委託会社は 12 社である。名古屋市学習支援事業で目指す効果としては、学力の向上・高校への進学、自宅や学校以外の居場所の提供、ロールモデルの提供であり、

事業を通しての課題は、沢山の会場がある中どのように各会場の質を担保していくか、高校合格後いかにして卒業まで繋げるか、学習支援事業への参加が望ましいものの呼びかけても参加してくれない子どもに対しどうやって参加に繋げていくかである。(名古屋市役所健康福祉局保護課 困窮者支援担当の坪井様より)

2017 年の秋から現在まで続けている学習支援のバイトでは主に、学習支援対象者となる中学生の学力向上に向けて学校のテキストを中心に指導をしている。表向きでは学力向上のためだけの事業に見えるが、実際は生徒の服装の乱れや傷が無いかを見て、家で虐待を受けていないか、いじめに遭っていないかを確認するための場でもある。また、貧困家庭であり不登校だという子、学校へなかなか上手く通えない子の居場所ともなっている。

アルバイトをしている中で、学習に対する意欲を持つ子どももおり、子どもの身なりや様子、子どもの話を聞く限りではとても恵まれた生活をしているように感じる。スマホを一人一台持ち、新しいゲーム機を買ってもらい、ディズニーへ遊びに行き、ギターを習い、支援ではない塾へも通い、極端な学力の低さは感じない。これらを踏まえ、本当に学習支援を欲している家庭に情報が届いているのか、参加できているのかという疑問が浮かんだ。この疑問はアルバイトだけではなく、子ども食堂へ参加させて頂いた経験の中でも感じた。学習支援や子ども食堂へ来ている人は貧困ではない、来てはいけないということではなく、本当に貧困で困っている人の中には周りからの情報が遮断され、届くべき情報が届いていない、知らないという人が居るのではないかということである。それによって本当に学びたいと感じている子どもの機会を奪っているかもしれない。また、現在は改善されたが、名古屋市からリーダーさんと呼ばれる学習会の会場を仕切る人が来て居た際には、リーダーさんが子どもに勉強を教えることはせず学習会が行われる 2 時間の間常に携帯を触っているということもあった。もしその状態が未だに続いている会場があるとすれば問題である。学習会へ参加する全ての人がしっかりと、なぜ学習会というものが存在するのか、目的は何なのかを知り、理解する必要がある。子どもが勉強を頑張るのと同時に周りの大人がしっかりとそれを支えることが必要である。

第 3 章　子ども食堂と子どもの学力

ゼミ活動の一環として、毎月子ども食堂に参加しているが、子ども食堂と言っても会場によって行われている内容はそれぞれである。参加している平田寺子ども食堂でも、貧困家庭の子どもを救うことを目指しており、毎月たくさんの子どもが参加している。ゼミ生でお話を聞かせて貰ったつなしょでは、子どもが勉強をしている姿を見守り、勉強の頑張り具合によってお菓子を与えるなどの活動が行われており、他に学習支援を行なっている会場も存在する。これらから、貧困家庭の子どもの学力の低下を打開するための一つの策として、子ども食堂で食事を提供すると共に子どもの勉強を見てあげるということもセットにしてみるのはどうだろうか。食事の提供により目の前の貧困を少し救うことは出来るかもしれないが、子どもの将来を長い目で見た時、やはり学力の向上が貧困の連鎖から抜けるための第一条件であるように思う。子ども食堂で学習支援を行う場合、やはり年配の方よりも大学生のボランティアが必要になってくるため、学生の積極的な参加が望ましいと共に、子ども食堂という場をもっとしっかりと貧困家庭の子どもに広める必要がある。

おわりに

本論では、貧困家庭の子どもの現状、学習支援を通して、の二章に分けて論じていった。第 1 章の貧困家庭の子どもの現状では、具体的な数値を通して日本の子どもの貧困率、低所得世帯やひとり親家庭について、名古屋市のひとり親自立支援計画をまとめ、第 2 章の学習支援を通してでは、まず名古屋市職員の方に伺った名古屋市学習支援事業の概要を記し、その後実体験を元に学習支援における問題点を挙げ、第 3 章では子ども食堂で学習支援を行うべきだという案を挙げた。

はじめにで述べたように、このレポートでは、貧困家庭の子どもの教育問題の完璧な解決策を見つけるのではなく、解決策を見つけるための糸口とすることを目的としている。論じていく中で出てきた、学習支援事業の実態、問題点を今回のレポートで言う解決策を見つけるための糸口とする。

また、今回のレポートでは扱いきれなかった、貧困家庭の子どもの教育支援費をどう国が工面するかなどはあらためて研究する必要がある。

注 1：OECD とは、経済協力開発機構の略。ヨーロッパ、北米などの国々によって、国際経済　全般について協議することを目的とした国際機関。

参考文献：『子どもの貧困 II』『名古屋市学習支援事業サポーターを始める方へ』
http://blog.canpan.info/nfkouhou/archive/1090
https://learningforall.or.jp/topics/column/blog-009/

平田寺子ども食堂

1.子ども食堂紹介	
場所：平田寺(北名古屋市九之坪宮前 6-1) 代表：長谷川裕美子さん 実施日：毎月第 2 日曜日 参加日時：2018 年 6 月 10 日(日)12：00〜14：00(ボランティアは 9：30〜16：00) 参加費：子ども無料 大人おこころざし 参加人数：お客さん 30 人(全員親子連れ) ボランティア 6 人 献立：タコライス、きゅうりとトマトとセロリのサラダ、夏野菜のポトフ、おひたし、大学芋、パウンドケーキ 参加・記録者：北澤彩可(中京大学成ゼミ 2 年)	
2.当日の流れ	
9：30〜 調理開始(精米、野菜を切るなどから)(調理中に近所の人がパウンドケーキや野菜を持ってきてくれる) 12 : 00〜 受付開始(11 : 45 あたりから人が来始める)(来た人から順にご飯を自分で取りにキッチンへ) 13：30〜 ボランティア全員で食事を開始 14：00〜 参加者が帰宅し始める(自分で使った食器は自分達で洗う) 14：30〜 ボランティアで調理器具などの片付けを開始 15：00〜 片付け終了 ボランティアで話 16：00〜 解散	
3.食材、献立	
食材：近所の人の寄付、フードバンク、地元のお米(買ってくる) 献立：寄付されてきた物などを見て当日に決める(基本は野菜中心、肉はたまに出る)	
4.課題・思い	
本当に貧困や孤食で困っている子どもに平田寺子ども食堂の存在が知られているのか。	
5.感想	
平田寺子ども食堂には今回が初めての参加でしたが、ボランティアのみなさんがとても明るく優しく接してくださり、参加しやすい雰囲気を作ってくださったおかげでとても楽しく活動出来ました。平田寺子ども食堂のボランティアでは、子どもと関わるというよりかは、食事を作るということがメインの活動だと感じました。特に印象に残っていることは、自分が食べ終わったお皿はボランティアの人ではなく使った本人が洗うということです。親が洗っている家庭もありましたが、子ども達が自らお皿を洗いに来る姿に感動しました。良い意味で参加者がボランティアに依存しない、自立した食堂だなと感じました。次回からも参加し続けたいと思います。	

平田寺子ども食堂

1.子ども食堂紹介	
場所：平田寺(北名古屋市九之坪宮前 6-1) 代表：長谷川裕美子さん 実施日：毎月第 2 日曜日 参加日時：2018 年 7 月 8 日(日)12：00〜14：00(ボランティアは 9：30〜14：00) 参加費：子ども無料 大人おこころざし 参加人数：お客さん約 60 人(全員親子連れ) ボランティア 10 人 献立：かぼちゃのコロッケ、ラタトゥイユ、トマト、きゅうりのたたきあえ、じゃがいもの玉ねぎの豆乳スープ、じゃがいもきゅうりかぶの味噌サラダ、かぼちゃの煮物、パウンドケーキ 参加・記録者：北澤彩可(中京大学成ゼミ 2 年)	
2.当日の流れ	
9：30〜 調理開始(精米、野菜を切るなどから)(調理中に近所の人がパウンドケーキや野菜や韓国海苔などを持ってきてくれる) 12 : 00〜 受付開始(11 : 45 あたりから人が来始める)(来た人から順にご飯を自分で取りにキッチンへ) 13：00〜 ボランティア全員で食事を開始　食べ終わったら順に調理器具などを洗い始める、残っているものは袋に入れたりラップに包む 14：00〜 参加者が帰宅し始める(自分で使った食器は自分達で洗う) 14：10〜 片付け終了 解散(平田寺で他の催し物がやっていたため、帰らずに参加する人も居た)	
3.食材、献立	
食材：近所の人の寄付、フードバンク、地元のお米(買ってくる) 献立 : 寄付されてきた物などを見て決める(当日より前には決まっていた)(基本は野菜中心、肉はたまに出る)	
4.課題・思い	
本当に貧困や孤食で困っている子どもに平田寺子ども食堂の存在が知られているのか。 子どもの健康に気を使う親にも良いと思って貰えるように。	
5.感想	
今回は２回目の参加でしたが、なんとなく要領や平田寺流を掴むことが出来、前回よりもスムーズにお手伝いすることが出来ました。前回に比べ、お客さん、ボランティアさんの数も多く、前回参加していなかったボランティアさん(平田寺子ども食堂の主となっている人)が居たおかげで用意、片付けがとても早かったです。子ども食堂の準備をしている間、外では雑草の説明(？)や法話、お話会、ワークショップが開かれており、とても賑わって居ました。前回と同じように、使ったお皿は自分で洗うというスタンスがとても素敵でした。(小学生が率先して洗い物をしている姿がとても良かった)	

平田寺子ども食堂

1.子ども食堂紹介	
場所：平田寺(北名古屋市九之坪宮前 6-1) 代表：長谷川裕美子さん 実施日：毎月第 2 日曜日 参加日時：2018 年 10 月 14 日(日)12：00～14：00(ボランティアは 9：30～14：00) 参加費：子ども無料 大人おこころざし 参加人数：お客さん約 120 人(大人が多い) ボランティア 10 人 献立：おにぎり(塩こぶと梅)、粉ふき芋(ブラックペッパー味とカレー粉味)、サラダ、スープ、焼いたベーコン 参加・記録者：北澤彩可(中京大学成ゼミ 2 年)	
2.当日の流れ	
9：30～ 調理開始(精米、野菜を切るなどから)ご飯が炊け次第おにぎりをにぎっていく それぞれ役割を決めおかずを作る人、野菜を切る人、調理をする人に分かれる 12：00～ 受付開始(11：45 あたりから人が来始める)(今回は外での食事のため、外で紙皿を使い来た人順に渡していく形) 13：00～ ボランティア全員で食事を開始 14：00～ 参加者が帰宅し始める 14：10～ 片付け終了 解散(平田寺で他の催し物がやっていたため、帰らずに参加する人も居た)	
3.食材、献立	
食材：近所の人の寄付、フードバンク、地元のお米(買ってくる) 献立：寄付されてきた物などを見て決める(当日より前には決まっていた)(基本は野菜中心、肉はたまに出る)	
4.課題・思い	
本当に貧困や孤食で困っている子どもに平田寺子ども食堂の存在が知られているのか。 子どもの健康に気を使う親にも良いと思って貰えるように。 子どもより大人の参加者が多い	
5.感想	
今回は 3 回目の参加でしたが、いつもの違う、おにぎりを紙皿で配っていく形式は初めてでした。子ども食堂は子どもよりも大人が多いので落ち着いた雰囲気です。(年齢層が高め) 平田寺の T シャツを作り、楽しみながら子ども食堂、ワークショップを開いているのでいつもワイワイと賑わっており、明るい雰囲気です。	

平田寺子ども食堂

1.子ども食堂紹介	
場所：平田寺(北名古屋市九之坪宮前 6-1) 代表：長谷川裕美子さん 実施日：毎月第 2 日曜日 参加日時：2018 年 11 月 11 日(日)12：00～14：00(ボランティアは 9：30～14：00) (私は今回は 11：30～14：00) 参加費：子ども無料 大人おこころざし 参加人数：お客さん約 120 人(大人が多い) ボランティア 6 人 献立：おにぎり(塩こぶと梅)、豆味噌を使った芋煮、みかん 参加・記録者：北澤彩可(中京大学成ゼミ 2 年)	
2.当日の流れ	
9：30～ 調理開始 12 : 00～ 受付開始(11 : 45 あたりから人が来始める)(今回は外での食事のため、外で紙皿を使い来た人順に渡していく形)(食事を取る前に、名前住所の記入とドネーション) 13：30～ ボランティアが食事を始める 14：00～ 参加者が帰宅し始める 14：10～ 片付け終了 解散	
3.食材、献立	
食材：近所の人の寄付、フードバンク、地元のお米(買ってくる) 前回私が寄付したお米も使って頂いた 献立 : 寄付されてきた物などを見て決める(当日より前には決まっていた)(基本は野菜中心、肉はたまに出る)(毎年この月はこれをするなどなんとなく決まっているよう)	
4.課題・思い	
貧困家庭というよりは、子どものために自然に触れ合わせるための参加などが多い。 今回は比較的子どもが多かったが、普段は大人が大半を占める。	
5.感想	
今回は 4 回目の参加でした。これまでは 9 時半から調理場でご飯の準備を手伝っていましたが、お客さんとも触れ合えるように、と受付の担当を任せて頂きました。仕事内容は、参加されている方のお名前ご住所を聞き、ドネーションをお願いし、配膳をするというものでした。3 回目まではあまりお客さんと触れ合う機会がなかったので、とても良い経験をさせて貰いました。	